

# いきごみ通信

第5号 2009年7月24日  
江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ  
〒132-0033 江戸川区東小松川3-35-13-204  
電話・FAX 03-3654-9188  
ホームページ：<http://www.ikigomi.jp/>

## 5月5日、46名が参加した第4回農業者との交流 地元農産物を支える東京都農林総合研究センター見学記

吉岡孝行分場長のご案内で研究棟（ビニールハウス）に一步入ると、その棟は小松菜の世界であった。葉型や色つやなど微妙に違うおよそ15種類ぐらいの品種が2列に並んでいる。それぞれの品種にネームプレートが立てられていて、入口に近いところに江戸の小町、その奥に菜々子・写楽・みなみ・浜ちゃんなど小松菜とは思えない名前が付けられていた。

このようなハウスが10棟、本格的な研究棟が8棟。その他にワケネギなどの簡易ハウスが4棟ある。江戸川分場は担当地域の足立、葛飾に江戸川区が生産する、野菜や草花の品種改良などの研究を行っている。

ご存じ小松菜は、我が江戸川区が都内一の生産量と高品質を誇っているが、枝豆は、足立区が一番だそうです。

小松菜は年間7～8作で20年～30年にもわたる連作による土壌への負担があり、その改善の研究を、枝豆は駆除が困難なセンチュウ被害について隔離圃場で研究を行っていた。

圃場見学の最後は、かつては担当していた小笠原地域の植物を集めた亜熱帯植物展示温室を



トマトとナスの育て方講習風景

見学して、いよいよ吉岡分場長の「プランターによる夏野菜の育て方」の実技指導である。私たち受講者から事前に問題点、疑問点などをアンケートし、それに答える形で実技が始まった。説明は分りやすく、容器やスプーンを使って計量。“適当にしないところ”が実技指導のポイントであることが分かった。まさに胸に落



小松菜のハウス

ちる内容で納得。トマト、なすなどの夏野菜（実もの）作りのポイントは、土づくり、肥料やりに苗選びだそうです。

昨年までの「農業者との交流」も充実していたが、生ごみ堆肥作り講習会に直結していた、という意味では今回の見学会は多くの収穫をいただいた。

この施設の前身は昭和4年（1929年）「鹿骨採種園」として誕生。その後、昭和13年（1938年）に「東京都農事試験場江戸川分場」として正式に設立し、今日に至っている。

毎日私たちが食べている命のもと、食糧は、長い間の地道な研究があって初めて進化向上していることを眼で見、舌で味わい、肌で感じた半日であった。（伊東春海）

\* 教えていただいたトマトと茄子の育て方、詳細はホームページに掲載しています。

### 本号の内容（目次）

- ☆ 東京都農林総合研究センター見学記…………… 1
- ☆ 春の講習会終了…………… 2
- ☆ 実験菜園のカボチャ…………… 3
- ☆ 特集 私の菜園 1…………… 4

## 『楽しい生ごみ堆肥作り』春の講習会が終了しました

タワーホール船堀とグリーンパレスを会場に開催した春の講習会は皆様のご協力で無事に終了しました。申し込み者は両会場合わせて71名、その内修了者は46名でした。これまでの講習会修了者は春の講習会で600名を超え、生ごみ堆肥作りの輪が少しずつ広がってきています。グリーンパレス会場で受講された方から、講習会の感想や堆肥作りの様子などを認めた手紙をいただきましたので、了解を得てご紹介いたします。堆肥作りの様子が生き生きと伝わってくる内容で、全文を御紹介したいところですが、長文ですので抜粋して掲載します。



楽しい生ごみ堆肥作りを有難うございました。恐る恐る会場へ向かいましたが実践クラブの皆様がとても親しく迎えてくださり、ほっとできたのが昨日のことのようです。またクラブの皆様は、とても意欲的に堆肥作りに取り組んでおられるばかりでなく、楽しんでおられるように見えました。

今まで週2回の生ごみ回収日には重い袋を運びながら「どうにかしなければ」とは思っていました。そんな時広報に、「堆肥作り講習会」が載り、飛びつきました。なお今回は区民農園もさせていただくことになり「これだ！」と思



分科会風景

ました。有機肥料で育つ野菜が安心して食せるなら一石何鳥にもなると感じたからです。

講習会は実際の材料や堆肥を目で見、手で触り、臭いを嗅ぐことができ、堆肥を実感できました。翌日から「刻んで刻んで」「水分抜いて」を合言葉に実践を始めました。たけのこの皮、とうもろこしの皮、蒟の筋、空豆の莢など何でも放り込みましたが……簡単には熟れてくれません。朝夕の生ごみで発泡スチロール箱は1カ月で4個に。この調子で増え続けたら我が家は発泡スチロール箱で埋まってしまうのではないかと。簡単に堆肥になると思ってしまったのが間違いのようでした。

第2回の講習に持ち寄った堆肥はみな同じ程度？私の堆肥には色鮮やかな夏みかんの皮や空豆の莢が入っていました。土が少ないとのこと

でした。この講習では「ジッパー袋利用の堆肥作り」や「廃油の堆肥化」を教えていただきました。気持ちを切り替えてジッパー袋に糠とともに一週間程詰め込み発泡スチロール箱に混ぜました。切り方も細かくしました。生ごみの量はぐっと減りましたが、ジッパー袋の生ごみは酸っぱいにおいがしてべとべととしています。発泡スチロール箱の堆肥の攪拌は週1回になり臭いがきつくなってきました。

第3回講習で皆の生ごみは熟れているのに、私のは第2回と変わらず、しかも臭いがきつくなってしまいました。土を上部に入れること(又は落ち葉)と「ぼかし」を教えていただきました。新しい生ごみは入れずに攪拌だけすることも学びました。わざわざ個人指導もして下さり、箱に入れる生ごみを減じ、ゆとりを持たせること、よく攪拌すること、種子や外皮は堅いので気長に待つことなど、ご指導いただきました。区民農園の秋野菜播種までにはぜひ私の生ごみ堆肥を使った植床を作りたいと思います。

今、虫喰い葉・曲り胡瓜・少々皮が気になる茄子・超太いインゲンなど、自分が育てた野菜たちをおいしく食しています。一株に50個なるというピーマンは1個しかならないけれど、「がんばって！」と声援を送る毎日です。

こんなに楽しい気持ちになれるのは、生ごみ堆肥作り講習会のお陰です。生ごみが循環利用できるようになれば、周りの方々にも伝えていきたいところです。まだまだ分からないことばかりです。秋の生ごみ堆肥作り講習会に参加させていただいて、実践の反省と対策にしたいと存じます。

## 実験菜園の見上げる高さにカボチャが実っています

菜園の近くにお住まいの方はお気づきでしょうか。第六葛西小学校の学校菜園のフェンスの上、見上げる位置にカボチャが実をつけて、道行く人の目を楽しませています。トウモロコシやヤマイモ、ハヤトウリも照りつける太陽の下で元気に育っています。

梅雨明け翌日の7月15日、菜園の草取り、追肥をしました。

今年の夏、菜園はいつもと様子が違います。春に種まき植え付けした野菜が、カボチャの蔓に巻きつかれ、大きな葉で日差しを遮られ、弱ったり枯れたりしてしまいました。元気に育っているのは生ごみ堆肥の中から芽を出したカボチャ・トウモロコシ・ヤマイモ、それに昨秋掘り残したと思われるサトイモやヤーコンなどで、今年栽培予定になかった野菜ばかりです。これらは、菜園のあちらこちらからひょっこり芽を出したもので、畝の端に移して育つかどうか様子を見ていた野菜です。その中でもカボチャは1株とは思えない勢いで畑を席卷、大根・ニンジン・アスパラガス・ニラなどが被害を受けました。カボチャもうどんこ病で葉が白くなったり枯れたりしていますが、病気に負ける様子はなく子蔓・孫蔓を伸ばして土の上に1個、フェンスの外側、見上げる高さに大小2個の実をつけています。大きさは20cmほどでずっしりとした重さがあります。収穫まで無事に育ってくれば、8月例会後の暑気払いで皆様に味わっていただきたいと思っています。



自転車を降りてカボチャを見上げ「大きくなったね」

菜園の草取りをしていると通りがかった人たちから、カボチャ大きくなったね。

カボチャってこんな高い所にできるの？毎日大きくなるので楽しみに見えています。野菜の本当の姿を子供たちに見せることができているね。等々、たくさん声をかけていただきました。このカボチャが生ごみ堆肥から芽を出したこと



を話すと皆さん驚き、さらに話が弾みました。

この菜園では、生ごみ堆肥だけで野菜を育てて6年になります。農薬も使っていませんので、

害虫・益虫・巨大ミミズやトカゲなど、いろいろな生き物が出てきます。子供たち



大きい葉がハヤトウリ、小さい葉はヤマイモ。蔓は桜の木に登っています。

が、休み時間にテントウ虫や蝶の卵を探しに来たり、カナヘビを捕まえて見せてくれたこともあります。

一昨年からは、学校給食の生ごみや米ぬか、落ち葉などを直接畑に入れてブルーシートをかぶせて発酵させるという方法で堆肥作りをしました。菜園を始めたころは固かった土も、ミミズが棲むホクホクした土になってきて、たくさん生える草も軽く引き抜くことができるようになりました。

楽しみが広がっている菜園です。活動にご参加いただける方は事務局までご連絡をお願いいたします

生ごみリサイクルの楽しみを御紹介する特集です。第1回はベランダ菜園。

ベランダでの野菜作りで一番の悩みは強風や乾燥、照り返しなどで大切に育ててきた野菜が傷んだり枯れたりすることです。ベランダ菜園は難しいと感じている方も多いと思いますが、工夫して楽しんでいる会員から、手間暇かけて育て収穫する喜びを伺いましたので、写真とともにご紹介します。

ジャガイモや大根・トマト・ナスなどの栽培には、米の空き袋が便利です。底に排水用の穴をあければ簡単に栽培容器になります。ビニール袋は軽くて扱いやすく、深さも折ったり切ったりすることで自由に調節できます。ジャガイモは3月13日に種イモを4個植え付け、6月25日に掘り上げて、2.5kg収穫できました。大根も種から育てて、売っているものと変わらない大きさになりました。肥料はもちろん生ごみ堆肥ですが、家庭によってできる堆肥に違いがありますので、必要があれば油粕を入れるとよいとのことでした。

大きいジャガイモは300gも



ジャガイモ；春先、折り返しを伸ばして保温や風除けに。



ビニール袋は軽いので、日差しを追って移動することも。



ミニトマト

トマトは強い日差しが必要ですが、夏のベランダは照り返しで温度が上昇して蒸れます。鉢を1ヶ所にまとめ置きしない、鉢と鉢の間を離す、鉢底にも風が通るようにブロックの上に置く、などの工夫をして管理するとよく育ちます。

**トマトの育て方** (5月に訪問した農林総合研究センターでの講習より)

『苗半作』と言われているように良い苗を選ぶことが、容器栽培では特に大切です。育てやすいのはミニトマト、太い茎で花が1輪咲いているものを選びます。JAの直売所などで生産者が手間暇かけて作った丈夫でよい苗を探しましょう。江戸川区花の祭典(5月3日・4日)で、地元の生産者の方が作られた良い苗が安く売られていたとのことでした。**仕立て方**の基本は、わき芽を折って主枝を伸ばし1本仕立てとしますが、根をしっかりと張るまでは折りません。早く折るとその後の生育に影響が出ます。風によるゆれを嫌うので、短い木や竹でしっかりした支えを立ててシュロ縄などで8の字に結びます。育ってきたら長い支柱を立てて誘引します。トマトはどんどん伸びますが5~6段花房の上2葉を残して摘心します。

### 8月の予定

- 8月1日(土) 補修講座第1回 勤労福祉会館 集会室4 スタッフ集合13:00
- 8月6日(木) 補修講座第2回 勤労福祉会館 集会室1 スタッフ集合13:00
- 8月20日(木) 例会 13:30~小松川市民ファーム 終了後恒例の一品持ち寄り暑気払いを行います
- 8月24日(月) 第17回生ごみリサイクル交流会 (NPO堆肥化協会主催 会場:早稲田大学)  
参加費 3500円 申し込みは事務局へ
- 8月30日(日) リサイクルワールド IN 東部

### 9月から秋の講習会が始まります

- グリーンパレス (木曜) 9/10 (401 会議室) 10/8 (401. 407 会議室) 11/19 (401・407 会議室)
- タワーホール船堀 (土曜) 9/19(集会室 407) 10/17 (集会室 406・407) 11/28 (集会室 406・407)